

令和 3 年度

事業所名： 麗の郷なごみ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373200260		
法人名	社会福祉法人 慈孝会		
事業所名	麗の郷なごみ		
所在地	〒028-5222 岩手県二戸郡一戸町姉帯字下村24番地1		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年5月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○河川や森林に囲まれた自然に恵まれた環境のもと、広々とした居住空間でゆったりと生活できる事業所です。
 ○礼節を旨とし、その人の可能性を引き出しながら、その人らしさを大切に、いつも寄り添ったケアを提供します。
 ○排泄の自立支援への取り組みとして、トイレでの排泄を基本とし、機能の維持を目指しています。
 ○敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイなどが併設しており、互いの機能を活かしてより良いサービスの提供を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

馬淵川沿いの自然豊かな環境にあり、遊歩道や東屋のある周辺の散策にも趣のある事業所である。運営する法人の特別養護老人ホームなどの施設が隣接して連絡通路で繋がっており、防災や交流にも役立つ。法人全体として、地域貢献活動や介護サービス向上に向けての取り組み、利用者への毎年の健康診断が行われており、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、創設者の思いが込められた理念の「礼節」を意識しながら利用者の支援にあたっている。特に、排泄の自立支援に力を入れ、一人一人の人格の尊重や個人の尊厳ある生活に結び付いている。コロナ禍により家族との面会が制限され、外出も困難な状況にあるが、家族からの要望に応じて、写真付きのお便りを始めるなど最高のもてなしを意識した介護の実施に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○法人の基本理念・方針に基づき、毎年度事業所の業務目標を定め、会議や朝礼で確認、共有しサービスの提供に努めている。法人の基本理念・方針は共有スペースやパンフレットに提示している。	創設者の思いが込められた「礼節」を重んじる理念と運営方針が目の付くところに掲示され、朝礼の場で唱和するなど、職員に浸透している。また、理念の実現を目指し、毎年度、全職員の参加による業務目標が設定され、年度末に評価・反省する仕組みがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○コロナ禍で行事等が中止となり地域との関わりがほとんどなくなっている。訪問理容は続けており、今年も地域の除雪作業を法人の取り組みとして企画している。	町内会に加入し、これまで通り回覧板が届いているが、コロナ禍により行事そのもの中止などが続いている。一人暮らし高齢者世帯の除雪作業もコロナウイルスの蔓延防止のため実施されなかった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議を通じて、利用者家族や地域住民に、事業所としての活動内容や介護保険制度などについて説明している。また、法人の地域貢献活動として、介護に関する説明会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○委員は各方面の方に依頼し、意見や要望等がある場合にはサービスの向上に活かせるよう努めている。書面報告で会議の代替を行っている。	現在は、2か月に1回、書面会議を開催している。警察や消防、民生委員や近所の方々に併せて、利用者の家族全員が委員になっており、毎回資料を送って報告し、意見をいただいている。写真付きのお便りが欲しいとの意見があり、直ちに具体化し家族の要望に応じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○市町村担当者への運営推進委員の依頼や、介護保険申請や生活保護に関する手続き、入所申込や待機者状況を伝えるなど、連携を密にしている。 ○広域事務組合や振興局に照会し、指導や助言を受けている。	地域包括支援センターや町の職員とは相談しやすい協力関係ができており、必要なアドバイスをいただいている。生活保護を受給している利用者もいるため、振興局の担当者とも連絡を取り、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○法人全体としての適正化指針を作成し、定期的な会議と研修を行っている。 ○転倒のリスクがある方や誘導が必要な方には人感センサーを使用し、身体拘束をしないケアを行っている。 ○夜間のみ防犯の為に玄関を施錠している。	法人として適正化指針を策定しており、毎月法人全体の会議が実施され、グループホームからリーダー職員が出席している。スピーチロックについては、悪気無くても咄嗟に使ってしまうことがあり、職員同士で注意することもある。理念にある「礼節」の実践が身体拘束の適正化に繋がると考えている。	法人の会議を受けて、グループホームとしての特性を見据えた独自の打合せや研修を行うことを期待する。

令和 3 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待に関するマニュアルを確認しながら研修会を行い、虐待の早期発見や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○外部での研修に参加した職員による復命研修会を行い、必要性がある場合には対応できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入居前に十分な時間をとり説明した上、契約を取り交わしている。また、改定等の際は、運営推進会議の場で改めて説明等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○苦情事、相談事受付ポストを設置している。 ○利用者からの意見要望等は日常の会話から、その都度把握し、ご家族は電話連絡や来所時等に意見を聞きサービスに活かしている。	苦情や相談を受け付けるポストを設置しているが、投書されることは無い。家族は全員が運営推進会議の委員であることから、その際に意見をいただいている。コロナ禍のため施設での面会は制限している。通院時の面会、プランの説明を行う電話連絡の際などにご意見を伺っている。家族の意見がサービス向上に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○月1回の職員会議や日々の申し送りの際に意見が出され、運営に反映している。管理者と事業所リーダー職員は、法人主催の経営戦略会議に出席し、その結果を職員会議で報告している。	日々の申し送り等のほか、職員の意見・提案について、リーダーが職員からの申し出を受け、管理者に伝えることにより両者の面談の場での意見申し出の機会を作っている。資格の取得、異動希望など様々なことについて、代表者や管理者が職員の話聞く仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○職場環境の整備を行い、労働時間等は個々に応じた対応をしている。また、資格取得に関する法人の支援、資格に応じた手当の支給を行っている。		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○新人職員への研修を開催している。 ○また、個々に応じた研修への参加、法人内部での勉強会の開催や、資格取得に関する法人の支援等を行っている。 ○オンライン研修導入へ向けて準備を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○いわて地域密着型サービス協会に加盟し、例年であれば研修会や定例会へ参加している。また、地域の施設交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○入居前の面談や施設見学において状況や困りごと等の確認に努めている。また、介護支援専門員からの情報を基に、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○入居申し込みや面談の際、聞き取りに時間をとっている。また、入居までの間に不安なことや要望がある際には電話連絡等で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○入居申し込みや面談の際、聞き取りによりニーズや必要なサービスを把握出来るように努めている。また、グループホームの利用について、担当の介護支援専門員等と適正かを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○食事の盛り付け、食後の片付け、洗濯物たたみ等、生活の中で役割をもってもらい、暮らしを共にする関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○コロナ渦で面会や行事への参加、通院の同行等はほとんどない状態だが、物品や嗜好品の購入、電話連絡やオンライン面会等により本人と家族との関わりに努めている。		

事業所名 : 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○外出は自粛していただいているが、併設施設入所者との面会や訪問理容は続けている。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、細心の注意を払っており、馴染みの関係を途切れさせないようにしたいとの思いはあるものの、現状として難しくなっている。2か月に1回の訪問理容、同じ敷地内のデイサービス、ショートステイ、有料老人ホームなど他施設利用者との交流は続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○お客様同士の相性を考えた対応や配慮をしている。互いに協力しながら生活ができる関係性作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○医療機関への長期入院や、他の施設への住み替え等によりサービス利用が終了する場合でも、不安が解消されるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用時の面談、その後の生活の中での会話等の中から、希望や意向を把握出来るように努め、気付きは職員間で共有している。	利用者の思いは、タブレット端末に記録し、朝夕の申し送り、毎月の会議で確認している。言葉での意思の伝達が難しい利用者の場合、選択肢を示して反応をみたり、仕草などで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○介護支援専門員から情報を得るとともに、入居申し込みや事前面談、その後の生活の中での把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○日常的に確認し、ケース記録として残している。また、事業所内での職員会議において周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○介護計画は月1回開催する職員会議においてモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しをしている。また、新たな課題や気付きは常に朝礼などで確認している。 ○家族の希望は、電話連絡や来所時等に確認し、出来るだけケアに反映するように努めている。	日々の記録、毎月の会議でのケース検討の積み重ねを介護計画作成担当者を取りまとめて、6か月単位で見直しを行っている。かかりつけ医など医療関係者からの助言をいただき、家族にも説明して意見をいただいている。概ね了解してもらうことが多いが、以前、運動量を増やしてほしいとの希望があり、追加したこともあった。	

令和 3 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○職員会議、朝礼、ケース記録で情報の共有をし、必要に応じて介護計画を見直しより良いケアを目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○外来受診が難しくなった方には訪問診療や受診の同行を行っている。 ○利用に慣れるまでの間、必要に応じて担当介護支援専門員の協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○かかりつけ医の訪問診療や地域の理容所の訪問理容の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○入居前のかかりつけ医が事業所で設定している協力病院であることが多い。家族の希望がある場合はかかりつけ医に受診している。 ○年1回健康診断を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	全利用者が以前からのかかりつけ医を受診している。通院は職員の同行としているが、精神科に限っては訪問診療となっており、毎週1人ずつ受診している。また、法人の取り組みとして毎年、レントゲン、心電図、血液検査などの健康診断を実施しており、適切な受診支援に結び付いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師は併設施設との兼務であるが、日常的に報告・相談し助言や指示を受けて支援している。また、24時間連絡体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	○入院時の情報共有シートの活用、入院中は早い段階で面会や電話連絡により病院関係者と連携を図り、退院時カンファレンスに参加し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○重度化対応指針に基づき入居時に説明し同意を得て、可能な限り事業所での対応に努めている。事業所での対応が難しくなった際には、家族と話し合いを行い、医療機関等への入院や併設する特別養護老人ホームへの住み換えを支援している。 ○体調に変化があった場合には、医師の指示のもと改めて家族の意向を確認し対応している。	法人として重度化対応指針があり、看取りについては行っていないことを入居時に家族に説明して了解を得ている。座位が保てない、頻繁に吸引や点滴が必要な状態が続いた場合には、隣接の特別養護老人ホームの利用に繋げる対応ができており、家族が不安に思うことのない仕組みが確保されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○マニュアルを基に研修なども実施しながら対応できるよう体制を整えている。 ○契約時の際、緊急の場合の対応を家族に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年2回総合防災訓練を実施している。 ○地域の方にも災害時の協力は依頼しているが、高齢化により厳しい状況である。 ○毎年のように河川が増水するが、その場合は早期に判断し、地域の避難場所にしてされている併設施設に避難している。	7月に火災、9月に水害想定で防災訓練を行っている。地域の方からの協力は高齢化などにより難しいものの、複数の施設での方が一の場合の協力連携関係ができています。昨年も馬淵川の増水時には隣接施設での垂直避難などが円滑に行われている。食料や必要資機材の備蓄は法人で管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○プライバシー保護マニュアルを基に対応している。排泄等の失敗の際にも、人目につかないよう配慮し、声掛けや支援を行っている。日頃から法人の基本理念である礼節を重んじ対応している。	理念にある「礼節」を重んじることを心掛け、排泄や入浴時の同性介助や利用者同士のトラブル後のフォローなどにも配慮している。また、利用者の顔がわかる写真の使用について入居時に説明し、理解を得られる範囲での使用としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○日頃の会話や行動から希望や好みを把握するよう努めている。 ○毎日の着替えや入浴時の衣類の準備、嗜好品など入居者に選択してもらっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 麗の郷なごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○訴えや意思を確認しながら、入浴や家事、その他活動などの支援を行い、一人ひとりのペースを大切にゆったりと過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○自宅で使っていた化粧用具等の持ち込みや、好みの髪型や衣類の用意等、一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事の盛り付けや後片付け等一緒に行っている。 ○毎週日曜日は入居者と職員が昼食の献立を考えて一緒に作っている。	特別養護老人ホームの厨房で調理されたものが届き、利用者と一緒に盛り付けや配膳、食後の片付けなどを行っている。希望のものや自前の収穫野菜などはホームで調理し、一品付け加える形で提供している。日曜日には希望により、ひつまみやけんちん汁、麺類を施設内で調理している。普段と違って、調理中の匂いが良いと好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○確実な食事と水分が摂取出来るよう一人ひとりの状況の把握に努め、必要に応じて付加食や嗜好品を提供している。また、嚥下機能や口腔内の状態に併せて食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○毎食後の声掛けや全介助、仕上げ磨き等、本人の力に応じた口腔ケアに努めている。必要に応じて保湿ジェル等使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○一人ひとりの排泄パターンや、尿便意がある際の仕草等の把握に努め、日中は全員トイレでの排泄に努めている。トイレの目印等に工夫している。食物繊維(サンファイバー)摂取による排泄しやすい環境づくりに取り組んでいる。	排泄の自立支援に力を入れており、声掛けのタイミングの工夫により、失敗も少なくトイレ利用に結び付いている。夜間は布パンツからオムツの使用になる利用者もいる。2名はセンサーを配置することにより安全にトイレへの案内ができています。食物繊維の摂取も排泄支援に効果がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○一日に1500mlの水分摂取と食物繊維(サンファイバー)使用により自然排便を促している。また、運動量を増やす為、体操に取り組んでいる。必要に応じて下剤の種類や量、服薬時間などを調整している。		

令和 3 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	○曜日は固定せず、目安としての入浴時間帯はあるが、個人の意思を確認したうえで対応し、声掛けの工夫やタイミングを合わせることで定期的に入浴していただいている。 ○入浴剤やゆず湯を取り入れている。	基本的に週2回の入浴であるが、希望があれば追加での対応も可能である。多い日で1日4、5人、午前から午後にかけて入浴している。柚子湯や入浴剤を活用、利用者によっては音楽をかけて職員と一緒に歌うなど、リラクスの場、コミュニケーションの場として効果を上げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○囲炉裏の間・ソファーを活用し、個々に合わせた対応をしている。 ○居室内に馴染みの物の持ち込みや、備品等の配置を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○投薬説明書を確認し、把握に努め、必要に応じ看護師に確認している。 ○服薬の介助方法は個々に合わせた支援を行っている。症状等に変化があった際には、受診時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○個々の生活歴、やりたいことやできていることに合わせた役割作りを心掛けている。 ○嗜好品については家族の協力を得ている。 ○色々な気分転換方法を試して張りのある生活を送って頂けるよう工夫していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○コロナ渦のために通院以外の外出支援ができていないため、事業所周圍の遊歩道を散歩することで気分転換を図っている。	利用者は外出したいとの思いがあると理解している。職員にはコロナ後には沢山連れ出したいとの思いがあるものの、現状ではまだ難しい。外気浴としてテラスに出る、天気の良い日は近くの遊歩道を散歩するなどの気分転換に努めている。また、通院時に利用者の希望で行きたいところを車上で見るため遠回りをするなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○お金を所持していることで安心する方に対しては家族と相談し協力を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	○家族の協力を得て、電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		

令和 3 年度

事業所名 : 麗の郷なごみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○天窓からの日差しの調整や、結露による水滴防止のための改修、浴室やトイレは使いやすいように改修している。 ○それぞれの空間で、配置の工夫や分かりやすい目印、季節に応じた装飾を行い、居心地よく過ごせるよう空調等の管理をしている。	天窓からの光が強く、日差しの調整をするほど明るく清潔な空間が確保されている。暖房は、床暖房とパネルヒーターがあり、テーブルとイス、ソファやテレビなどが配置されている。季節を感じることで飾り物、削り絵などの利用者の作品が展示され、利用者は思い思いに心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○食堂以外に、二か所の別れた空間があり、ソファ・ベンチ・囲炉裏の間・テーブル等思い思いにくつろげるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○馴染みの物を持ってきていただけるよう入居前の説明文書に記載しており、事前面談の際に、使い慣れたものを本人や家族と一緒に選ぶ等の支援を行っている。基本的に持ち込みの品は少ないが、事業所備え付け品の配置等を工夫している。	ベッドやタンス、洗面台などが備え付けられ、利用者が持ち込んだ衣装ケース、家族の写真や時計、位牌などが飾られている。出窓があり、鉢植えを飾っている利用者もいる。夫婦での入居を想定した和室もあるが、現在はすべて単身用に改修されている。利用者が安心して過ごせる空間ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○トイレや居室前の目印、衣類が選びやすい環境、ポータブルトイレや移動バーの活用、人感センサーの設置、おむつ類の置き場所などを工夫し、声掛けや誘導により、自立した生活が送れるよう支援している。		